

第2回新潟地区国立病院 薬剤部科勉強会を開催して

新潟病院 薬剤部 串田 祐亮

はじめに

平成27年12月5日(土)、新潟県上越市にあるレインボーセンターを会場として第2回新潟地区国立病院薬剤部科勉強会を開催したので、報告します。参加者は新潟県内の薬剤部科職員14名、県外施設より1名、実務実習中の学生1名の計16名で実施となりました。昨年度、第1回は新潟病院にて13名の参加がありましたが、それを上回る出席者にての開催となりました。

開催会場は、3施設の持ち回りということで第2回はさいがた医療センターの山口正和薬剤科長にご尽力いただき上越地区での開催となりました。

勉強会の様子

当日は中越・下越地方は天候が悪く開催が危ぶまれる状態でしたが、上越地区は晴天に恵まれ、無事定刻通りに開催することが出来ました。

内容については、関信地区の研修会で実績のある株式会社大塚製薬工場に協力を依頼し、「輸液管理とフィジカルアセスメント」と題して研修を行いました。

勉強会では、西新潟中央病院の高橋省三薬剤部長の開会の辞に続いて、山口科長から開催施設長の挨拶がありました。その後、大塚製薬工場株式会社の講師による「輸液管理とフィジカルアセスメント」と題して講義、実技・演習という形で研修会を進行しました。

第2回新潟地区国立病院薬剤部科勉強会 会次第	
日時	平成27年12月5日(土) 13:00~17:00
会場	上越市「レインボーセンター」
会 次 第	
	司会 串田 祐亮 先生(新潟)
開会の辞	高橋 省三 先生(西新潟中央)
幹事施設長挨拶	山口 正和 先生(さいがた)
研修課題	13:10~16:30
	1. 情報提供「ボルベン輸液 6%の特徴について」
	2. 輸液管理とフィジカルアセスメント
	・講義
	・実技演習
	・まとめ
	講師：株式会社大塚製薬工場
全体会議	16:30~16:55 実行委員 加藤 由起子 先生(西新潟中央) 串田 祐亮 先生(新潟)
閉会の辞	樋口 順一 先生(新潟)

資料1

最初に講義が行われ、バイタルサインとは何か、薬剤師が行うフィジカルアセスメントとは何か、聴診器の構造と使い方について学びました。その後、高齢者の輸液の処方設計に関する症例問題が1題提示されました。

次いで、実技・演習ではフィジカルアセスメントモデルのPhysiko[®]を用いて瞳孔の散瞳・縮瞳

の確認、聴診器を用いて心音・呼吸音・腸の蠕動運動の3項目について正常音と病態モデルの聴診を行いました。また2人組で脈拍の測定、血圧計を用いて血圧の測定を行いました。その後、症例問題の病態に設定してあるPhysiko[®]のフィジカルアセスメントを行いました（写真1・2）。

実技・演習ではパターン化されたモデルで練習をしましたが、実際の患者さんでは様々な病態が絡み合っておりフィジカルアセスメントの技術は一朝一夕に習得できる獲得するのは難しく、実際に薬剤師が病棟薬剤業務として副作用評価を行うためには、常に鍛錬が必要だと感じました。また、カルテに記載してある内容や他職種との会話の中でそのバイタルサインがどういう状態なのかという共通の認識を実習・演習することで理解できるようになったと思います。また、この勉強会を通してより質の高い病棟薬剤業務の拡大・充実において薬剤師に求められる必要なスキルの1つであることを痛切に感じました。

その後、冒頭に提示された症例問題の解説が行われました。実際に症例問題に取り組み、薬剤師が行うフィジカルアセスメントの役割とはどのようなものを学びました。個人的には研修の後、日々の業務において注射の払い出しを行う際も投与量や配合変化に問題はないかといった”モノ”

だけでなく患者さん個々人の年齢や病態などの”ヒト”の部分についても考えながら行うようになりました。

研修終了後、全体会議として実行委員より次回の勉強会の開催は西新潟中央病院で行うことが提案され決定しました。

最後に、新潟病院の樋口順一薬剤部長から閉会の辞をいただき、勉強会は盛会のうちに終了となりました（写真3）。

勉強会終了後、行われた懇親会では普段なかなか交流のない様々な施設の先生方と有意義な情報交換が行われ、盛会のうちに第2回勉強会も解散となりました。

まとめ

今回も前回以上により内容の充実した勉強会が無事終了し、その余韻を感じながらこの原稿を書いているところです。実技・演習では普段、使われているところはよく見かけても実際に使ったことのない聴診器やカフ式の血圧計を使用して研修を行いました。病態モデルなので絶対に聞こえるはずの心臓の音が自分だけ聞こえない、血圧測定時の上腕動脈の脈の音が聞こえない、と思ったら聴診する方法が間違っていてひとりで四苦八苦するなどといった小さなハプニングはありました



写真1



写真2



写真3

が、大塚製薬工場の講師の方々にもどのようなところに着目してバイタルチェックを行ったらよいか丁寧に教えていただきとても勉強になりました。

新潟県は南北に縦に長く大きな県であることや、冬の荒れた気候の面からも3病院の職員で集まって勉強会や意見交換会を実施するというのはなかなかハードルが高いという面があります。だからこそ、関信地区国立病院薬剤師会の総会・例会だけではなく年に1度の新潟県内での勉強会というものを大切に、より充実した良いものに今後ともしていかれたらと考えています。そして、年に1度の勉強会にとどまらず他施設合同研究や国立病院総合医学会での学会発表などの機会を作っていけたらよいと考えています。

全体会議にて次回第3回は9月から11月頃に西新潟中央病院にて行うということが決まりました。研修内容も「抗がん剤の投与システム」に関する研修、3施設とも神経内科を診療科としてもつ病院であることもあり「パーキンソン病」をテーマとした研修など様々な案が検討されています。第3回も参加して良かったなと思えるような充実した研修会を目指し、そろそろ動き出さねばいけないなと思っているところです。第3回も他施設の先生方の出席もお待ちしております。

最後に、研修会にご協力いただいた株式会社大塚製薬工場の方々および実行委員の新保一先生、加藤由起子先生に感謝とお礼を申し上げます。